



萬年君  
賜集名

片心了忠志





古  
画  
印

文化8年  
辛未



三千の巻をひらきし髓を洗ふ御を  
 覚へたおむきいふえのきんぎょのし  
 こそ春祝まゝのからんまをせ  
 お滝のりかゝる珠の光にあは  
 ぶらゝるもつらもつらもつら  
 まゝ久照るたはれかゝる  
 ぬるまゝの視のふもとよむは  
 こそ進むるてんか巻一しとて

おいれまゝの巻をひらきし  
 刻もたはれしはまゝの  
 あらゝる日かゝるまゝの  
 まゝの諸名家の巻をひらきし  
 かゝる巻の巻をひらきし  
 猫のくさ月吾れをひらきし  
 巻をひらきし  
 こそ進むるてんか巻一しとて

福を蒙りてはふねの集りてはなす  
かき〜ありはなすはなすはなす  
十寸種のみなす〜ふ〜と  
此より〜はなすはなすはなす  
衆長〜はなすはなすはなす  
いふ〜の言ひ叶はなすはなす  
世に〜はなすはなすはなす  
たか〜はなすはなすはなす

五徳年未冬日

八景推丈之松

附言

一諸先生諸君の御共々共概ハ時々存の多摩日記一書を著せし  
其名も果してその名を知りし人よつててサ加へんは其の  
の遠しもある校訂の事なるハ也

一賀喜のころを巻くものハ也と題するものハ賀喜の中ハ厭ふ  
巻にふふふふふふふふハ采を推してハ斧とてて生るも  
仍志する伴の事なるもやハ其の事且ふかかかかかか  
我日の年のす懐あるも是解體の事なるハ金原らもは  
この事ハ也

一志願の事なるも其の如き事ハ集あはせしもの事なるも  
とや今も其の事なるも其の如き事ハ集あはせしもの事  
一懐中短冊の事なるも其の如き事ハ集あはせしもの事  
一和歌の事なるも其の如き事ハ集あはせしもの事  
別は一集の事なるも其の如き事ハ集あはせしもの事

以上

あよよよよあゆふやの小青が 不寔

何れよつ 鶴糸巻や 昔牛

杖の事 雪よえいけふ代板 坂昌陽

勢の事 海あふ海 牛毛

不先の事 けらとそ 湖柳

雪の事 やあこつさ 鶴羊

いよよよ ぬあや 升月

麗下 壽の字もふゆ牡丹

李保

妻のしるし 錦よさくさる 印の音

花真

茶信の妻のしるし ぬよ 瓶の輪

雲知

月あつ 鶴もふゆ 田のハナ 町

春樹

酒の妻のしるし ぬよ 瓶の友

三喬

から 月 枝の 数もさくさくぬ

其友

耳の ぬの 里の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

属浮

花の ぬの 木の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

属外

大沃連

冬も 妻のしるし ぬよ 瓶の友

寒阿

冬も 妻のしるし ぬよ 瓶の友

松恭

雪の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

魯洲

法や 妻のしるし ぬよ 瓶の友

斗雪

松の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

一夕

雪の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

雪香

人坊の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

東波

葉の 妻のしるし ぬよ 瓶の友

加竹

花さくまをよこすもあはれ玉取中

千風

丹頂も庭よなきむの日の小春

采夫

戸内娘を光の雲あれを日向

雪路

大くしはあをを吹くやあはれ牡丹

桂風

盤子あまたまはるれをもも

雪水

ふまはるあまのつもあはれの落しを好

雨林

梅くしをよみてあはれ巨峰の

素秀

空きくを竹の女や庭の先

芳水

大くしあはれ筆のあまの空の梅

松翠

月雪はまはるあはれ名は

百川

雪の梅あはれ月日 蓮あまの形

蘭光

茶びくをハキの葉やあはれ牡丹

一秀

あはれ小日あまの乃牡丹

泉舎

あはれしもくしあはれや松を宿

都村

後を身をほろけしあはれ松乃あ

椋里

かへる花あはれしあはれ幾くはも

草也

北総松戸

河原山

吉川



冬をきくはんは省のふりか  
ニ々羊

東鶴

壽をねむるもふれ冬の山

序禮

歌仙

八十八歳

松翁

ふふふは松林は走るも小春の  
かきまゝくくく松のふる屋

序禮

鮮にさそをさるる市井

東鶴

藍のよりに花ははぬ袖もと

柳水

月の秋のめききうらとおれつる

東滄

尾花のゆき花ぬくもて

和水

ウ

おちぬのききふりてはなれ

唇花

ぬきもくろある後とが花

来曾

山ろ花露とひくめなれは

松菘

おちぬのききふりてはなれ

斗雪

さく花うらつれちゆく夕ぐれも  
寥阿

さりしとくさくあなまき玉  
魯洲

懐胎尼ある待やうはくつあ守  
氷佳

空一とひも 夢さつらよむる  
松翁

四方より移るなつるの筆を  
柳水

巨龍もいづくよ月々さん  
萬淳

慈くはとまいたまひて花の友  
雪路

海月のとくはく春はらぬらう  
香山

館切の神の道はけくふき  
序禮

なす橙のたのむくくはぬく  
東鶴

くも余心の降うら友の重かぬ  
和永

まのきぬまきもの喉はくはく  
群人

いさしはら小松をまきほく  
庭翁

油室を煮る 冬もまけり  
東滄

史をもき鶴たまも枕もと  
箕冬

本綿さくさぬくく青  
雪路

中々唐の山田の所の若き那来  
 出た人々や々の裏まけ出  
 夕月やちぬ男、呼吸のけ  
 己んさ踏まふは船道  
 雁ついの向をさうは枯る傍  
 ち〜せ〜の〜は〜雀の〜さ〜く  
 中飼のまつ〜もの〜涙〜ひ〜り  
 ち〜の〜心〜き〜ん〜ち〜や〜の〜か〜ま

鷺山  
 東川  
 唇紀  
 酒好  
 東鶴  
 香山女  
 子長  
 序禮

蓮葉よ花ころ葉もあけけん  
 水〜さ〜け〜田〜り〜み〜〜る

寥々松  
 舒父

八茶菴典行歌仙

六の翁ははめ〜さ〜る〜ふ  
 う〜〜〜も〜〜〜の〜れ  
 二ま〜〜〜の〜は〜〜〜〜と

小春もやとくくまぬハ十九  
丸お改甲をあらのくまもれ  
山水や檻をまの海をあら  
ちひさし楳の何とくつや  
くつをまの月を中敷子家  
相子青竹をまの眞の隠もか  
消身をぬぬ面片をくつや  
いづも馬の尻を中敷子家  
老阿

簾戸の地のまを花をくつやあら  
獲着をまの池を真さハ  
まの志をまの隠を眞の隠もか  
るくあらぬまの人を魚をくつや  
秋をまの江の巻を浪の上  
新踏をくつやぬりくまゆ  
簾ももの境をくつやる月を  
くつやあらぬまの病を人のか出  
序禮  
荆父  
有聲  
甫天喜  
群人  
寒今相  
相飲  
むき人

峰のふりしぬ形あふ散きく

笠南

水菜の畑ハうち走しけても

淇岸

うらみの藤 起つてみる形あく

方壺

及故比んきし節のもふ

和吹

鶏は病く去程の所能志は茶

有聲

杉の葉をうらむとて掃き

竹鳴

あふれ海蕨とぬハくもきん

東鶴

澄りやう家ハきりうく後

一賀

人中を一つ不形後のも能これ

之上

真喰とてふを新とてかこ

舎月

うらむとて撫をうらむ松のくち

黙勢

枯りゆき結年もくも明る

眉石

岸らふ幾廿九日の月を反て

之上

浪のまよく浪戸の小俵

斜夕

信つる岩市街のきりし地

眉石

筆をうらむ嵩と大さかき

竹鳴

物まを權へ奉る心花咲く  
山松  
海いつと心く春の日能入  
一賀  
終りくまは二月をさくも  
舎月  
すめのをくく白のさゆら  
黙努

賀祖父鈴木松翁八十八

飯龍田

八十八年千鶴同詠松舞竹萬龜中春秋

性氣豈君子有月有花唱國風

澤蘇亨

積善餘慶屋和樂封筵開簷外清風散園  
中瑞氣來日升煙閣丘樹茂接蓬萊知是  
仙家宴長留不老杯

宗魯祝

宗魯の沈み候るる免のまはや老のとき  
これある奥の意の跡はぬるあつと

坂昌陽

ちかひのつらき松の影もさびしき世のまじりて

直利

八百員の深乃志のそけうも隈のあけぬ松のよみ

轉高

うらみのつげ神の意えてちかひのまじりて

其の女

深まう雪のしらふもかぐろふ咲てままつ梅の初花

梅のつらき世のまじりて

秋のつらき世のまじりて

南の小なる春のつらき世のまじりて

恒越の田をえりて家やその梅

草のつらき世のまじりて

色は昔のつらき世のまじりて

足系はつらき世のまじりて

空翠

有月

草室

葵子

金翠

梅府

好音

十月や伊勢の女の春の似て  
 百聲  
 炬の火を思ふ心は春の如く  
 箕冬  
 夕暮の霞や思ふ心は春の如く  
 思聲  
 志く心や思ふ心は春の如く  
 真見  
 此よりの心は思ふ心は春の如く  
 扇用  
 野山に思ふ心は春の如く  
 群人  
 厚衣くや思ふ心は春の如く  
 寒也  
 美人気や思ふ心は春の如く  
 顧山

おろおろの月の上の野に  
 寒葉  
 耳をたたくよも思ふ心は春の如く  
 一中  
 心は思ふ心は思ふ心は春の如く  
 花笑  
 出でた心は思ふ心は春の如く  
 柀蝶  
 春の心は思ふ心は春の如く  
 雪守  
 志く心は思ふ心は春の如く  
 菟志  
 田の心は思ふ心は春の如く  
 瀬江  
 八十の心は思ふ心は春の如く  
 陵花



ぬくはしき静しは、雪うふる

茶袋

その田やなみの水も眼も花も

桂羅

予もあんなあな想止む雪のはれ

其道

そ羽山をかえし家や藪 棧

晋雅

志うれ事なき程なきあめあめ

赤斧

かくきもきんよ果なき雪の里

如雲

旅のしるしやまの東只はし

蒼虬

小きやうふくあなぬ 熾る嵐

老阿

かこ山を杖はさぬ小鴨さ

午挂

あしはしおしあはくあは時るうか

節句

をいばるる夜のやまあゝ電

鷺雪

山をきやふきりけし月を友

舎月

きや静を向くと松をんる

巨月

いそ山や朝日のうらるあおの松

文札

帯うあまの山あをあはく二月さ

之上

後部子のよはし泊るるを茶の杖

松欵

あまのつとふふるや志うれの松若歌 士朗

つとふあまのつとふものも野のつとふ 竹育

中ちきや日安らぬを月あふる 北弦 文太

あけのつとふ山里を記年のつとふ 梅翠

あけのつとふつとふものもつとふ 北 巢北

あけのつとふやあけのつとふの鳥もつとふ 翠兒

あけのつとふのつとふつとふのつとふ 太 太節

あけのつとふのつとふたつとふや偶田のつとふ 一葉

あけのつとふつとふ十月の春をうれ 木葉

あけのつとふつとふつとふつとふ 幸手 一塘

あけのつとふつとふつとふつとふ 上尾 石丈

あけのつとふつとふつとふつとふ 関名 萬川

あけのつとふつとふつとふつとふ 行徳 不浅

あけのつとふつとふつとふつとふ 駿原 去留

あけのつとふつとふつとふつとふ 菅雅

あけのつとふつとふつとふつとふ 葛三

こめ船のそよ風はくさくさ  
蕉雨

つらねーくゆーワの葉うか  
雨塘

くさくさ春のまきーくさ  
東子

ふさふさりふ帆のあゝや波揺  
古帆

みもも里低土野花よあゝゆれ  
平角

すくすくろろおとろろふきさ  
可部里

玉笠ふ日の影くさくさ  
綵鳥

くさくさや世の縁あまは片折戸  
月峯

中々くさくさや先の藁くさくさ  
吐雲

ふさふさくさくさーやあゝ花  
巴水

あゝくさくさくさくさくさ  
叙来

ふさふさくさくさくさくさ  
乙二

まゝくさくさくさくさくさ  
鶴老

小夜くさくさくさくさくさ  
森

あゝくさくさくさくさくさ  
國村

あゝくさくさくさくさくさ  
長齋

平乃りけや秋のあけもつよ草の春

升六

春のつ申や免のけし家小葉系

二の半連

東滄

秋のあやうし秋のあけつもの山

庭翁

秋のけやあけのあけまて日くあけけ

子長

夕うれの音さしあけれ相やあき

東川

つ申やあやあきよふし秋のあけ

和水

雪のあけあけあけあけあけあけ

酒好

あけあけあけあけあけあけあけ

響山

秋のあやあけあけあけあけあけ

香山

あけあけあけあけあけあけあけ

柳水

あけあけあけあけあけあけあけ

雪且

あけあけあけあけあけあけあけ

序禮

あけあけあけあけあけあけあけ

東鶴

あけあけあけあけあけあけあけ

双樹

あけあけあけあけあけあけあけ

普記

あけあけあけあけあけあけあけ

定雅

梅壽

古河

流山

かゝるやのしらべもや山の雪  
 久威  
 ちやうやまゝと赤し冬も昔  
 護物  
 昔もやと後にも今も  
 一阿  
 くも花よしくん家の早も  
 冬民  
 不とくしよか其の雪のふゆふら  
 ノ且  
 冬もやや牛の吐もん稲も  
 友水  
 何と家もやと戸も丹も  
 歡月

冬もやや牛もやと稲も  
 白芥  
 茶もややいらぬ人の家  
 不  
 雪の音も深山の月ハ戸口なる  
 露臺  
 不二寺も春の鶴もはけつてく  
 子心  
 ちやうやまゝと赤し冬も昔  
 梅嶠  
 ハ九曲山も花もやと昔も  
 國甫  
 口もやや人もやと昔も  
 壽山  
 後もやと昔もやと昔も  
 普成

わらわをてらふけりてあまき  
こゝろお招の勢さう初めれ  
実さうや磯さうさうけりし  
くまふおはさうはさうやみさ  
人のんふふあまみれきさる  
つおお田も最ほりさう出入  
山の市やさうさうさうさ  
けりし科さうさうさうさ

一雨  
四明  
草石  
升古  
寥一  
琴音  
秋兔  
午心

此き初もなして法事の片け戸  
帆車さうさうの勢さうさ  
伐採すけふさうれつおのみさ  
雅僧さう是案をさうさうさ  
えさうさうぬおの余にさうさ  
田もはさうさうさう入る神楽さ  
さうさうや夕日さうさう  
城の史をねさうのねさうさ

宜麥  
方壺  
一賀  
芦錐  
大河  
鶴里  
杉枝  
成美

志し雪やおのれさしきくみる

完来

汝孫のちきき愛の二株とらふ

豪山

何はうし人を小く能山日和

雪翹

風あらし梅はくさきさくさき

太阿

さきく梅もさくさくやるあを

蓮佐

その梅もを徐くくさくさく

慈堂

さきくやあははくさくさく

文甫

きりくさよや柿くさくさくさく

笑和

移んと移よさきくくく枕の宿

擣之

山を移りくさくさくさくさく

素芳

はのさきくさくさくさくさく

孤月

おのれさきくさくさくさくさく

寥松

刈株やさくさくさくさくさく

吐帆

麦色やさくさくさくさくさく

多々

野のさきくさくさくさくさく

笠甫

さきくさくさくさくさくさく

迂鶯

かゝるも此の山後におろ月

白酔

松木の度するよ柳の水々味

三備

波もや月やおも路の松の中

永葛

岩の壁もやはる雪の山

平老

古根を葉と初るぬを玉の板

在魯

空つもの石溜子松ゆく雲の

氷佳

二峰の山をほるる松の葉の山

白義

香梅の山をゆるく山をゆるく

鶴童

走く松のやうけ松くまを雪の山

雪窓

葉の山をゆるく松の山

松随

正月の山をゆるく松の山

松長

松の山をゆるく松の山

松露

松の山をゆるく松の山

義交

松の山をゆるく松の山

松馬

松の山をゆるく松の山

春村

松の山をゆるく松の山

了輔



鹿のあつ人まやの嵐いもちまふれ

巴濤

冬のややまきしし向船つりし

中山

み井きるまあうまーやあまの秋

亀畑

ひしねのあまお少あやうあ嵐

牛子

秋の星さのし使まあうしりり

舒夕

まう根や日のとほさいつあ屋花

鳶人

つしきや形改はしりうまある

鳳子

まさあま人らまうあまらりり

槐市

たつ山にるのあまはもかあしりり

草阜

孫つやんこまきしん雪まあう湯

馬寧

飄よしあまのしりりあま抱まらり

寒松

はしりあまの難起りつさうあ

奠山

左あまあまぬあまあまあまら

洪岸

あまあまあまあまあまあまら

牧父

あまあまあまあまあまあまら

眉石

あまあまあまあまあまあまら

方黒

おなら月耕をあらわす物ある小  
 班象  
 七曲をうけし八独を地をうけし  
 鼠齋  
 おうきや光のうらむ根の根  
 不染  
 知る人なれしやまをりんその月お  
 竹鳴  
 葉乃あつても好むものうらむ眉  
 柳美  
 海の波や涼しむ月、揺るうへ  
 佛奴  
 汐たこの二つぬしをまをるうか  
 山批  
 羅維の香するやおの小簍ぐ  
 黙勞

春のやちをよひんぬふとある  
 晴洲  
 舟もか心梅の文よし 野のり知  
 飛谷  
 野の向のうらむものよくれの春  
 得真  
 百世の魚とらむあるはるまゝか  
 梁山  
 川をやちをよひぬるはあ深帯  
 蕭丈  
 花も光とと移るうらむ山  
 李冠  
 起くぬらむおの春の帆うけ舟  
 都重  
 舟の響もよむるものよ相う桶  
 山松

かききりた時るくろく二日月

春蟻

草のしきるるの翅を喰ふこく

由岐年

中つるも出代さるや夏の秋

沙羅

ちかかき鴨よ月あつ嬉し心ら

一職

何くくおむいよさるも枝や水さ

響美

昔も畠のんくもよあつぬ雛子のあ

一棧

形原をぬ比るるのちり笑ひ志や

是平

昇るるとい昔もあつたまの月

志丈

く燈はまは深人なまは門のあ

青我

又まもも知くさる柳さ

月翁

山もあ家鴨ふまぬ家年のくれ

桂二

そりれを柳の昔このそもさる

其堂

それもさる木のほよと海の松さる

来曾

正月の年るもあつたる生海蔵さ

宇橋

いさうはや言の中さる山あらし

楚友

く女のむさるの昔もあつた家小うた

萬里

秋葉やかきへて葉を笑ふ

秋葉

いとる世やわづら葉を息へ

東川

里去つら板も吹く松本なる

壺淵

一しきとささのほや春の成

拾之

川葉よ日のあつまぬ草葉花

蚊牛

前へも春もかぬ葉をの葉

三原聖

明くぬや桜ささきの葉

周賀

あふ散りのささきや葉の葉

梅壽

ゆく人をたぬさのあふ葉

寄淵

やきさの葉をよく春の葉

丘高

岩をさす日南かきり葉の岩

嵐外

けりか記さや野分のハまむら

雉老

あふのけりや庭子のハまむら

吳柳

いとほしやささのあふ月ささき

荆父

むらさきや葉をさすも人のあふ

炭路

久はる葉動ハやまらあふ

夢松

賁宴歌仙

俳諧之漢和

於梅立地冰黒井

炭<sup>レ</sup>賣<sup>レ</sup>歸<sup>テ</sup>家<sup>ニ</sup>悴<sup>ク</sup>

寥<sup>々</sup>松

あゝいゝゝゝゝの山<sup>ノ</sup>晴

方<sup>壺</sup>

禾<sup>ノ</sup>黄<sup>ク</sup>侵<sup>レ</sup>土<sup>ヲ</sup>畢<sup>リ</sup>

荆<sup>父</sup>

月<sup>ノ</sup>白<sup>キ</sup>為<sup>レ</sup>霜<sup>ト</sup>傾<sup>ラ</sup>

寥<sup>々</sup>松

けい<sup>々</sup>の<sup>々</sup>か<sup>々</sup>け<sup>々</sup>神<sup>よ</sup>つ<sup>々</sup>

右<sup>聲</sup>

面<sup>お</sup>ひ<sup>や</sup>り<sup>能</sup>

黙<sup>努</sup>

リ

祠<sup>ニ</sup>靈<sup>ヲ</sup>依<sup>テ</sup>井<sup>ニ</sup>浴<sup>ス</sup>

群<sup>人</sup>

乾<sup>ニ</sup>聳<sup>ル</sup>大<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>薨

松<sup>欣</sup>

旅中 歡樂有り

夫河

編みたるあしを志をかまひて

竹鳴

宮守りてぬちをきりしる

眉石

月とては流る小舟を岸

松欽

夜をくし人形燈の燐々つ

群人

都の女 不延情

寥松

むつとてあつたをきりしる

荆父

田螺 微雨鳴

眉石

裁くも前もく人の志の宿

方壺

うかくられるまの勢よく

大河

望く人の傍りもく人よき

箕冬

くさくさのほろのほろの

舎月

乾<sup>テ</sup>干<sup>日</sup> 鹽<sup>曲</sup>

眉石

曝<sup>自</sup> 流<sup>麻</sup> 精

寥松

子<sup>母</sup> 居<sup>食</sup> 睦

竹鳴

ちさい鏡をうけるはり

序禮

抽<sup>ラ</sup>雪 梅<sup>レ</sup>先<sup>ッ</sup>發<sup>ク</sup>

黙努

いつくはやくもくもく

東鶴

あゝ雑魚のあゝ

寥松

終身 不<sup>レ</sup>娶<sup>ラ</sup>寧<sup>トス</sup>

大河

思<sup>レ</sup>静 娛<sup>ニ</sup>窓<sup>一</sup>月<sup>ヲ</sup>

方壺

把<sup>レ</sup>燈 秋 茶<sup>ノ</sup>蜻<sup>ヲ</sup>

松欣

市<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup> 新<sup>一</sup>醪<sup>ノ</sup>艇

寥松

直<sup>キニ</sup>名<sup>ル</sup> 俠<sup>ト</sup>者<sup>ノ</sup> 兄

群人

たそかろ 扇ふ表をむつかろ

舎月

さけふ 成<sup>一</sup>る<sup>ヲ</sup> 料

有聲

江<sup>一</sup>水 添<sup>テ</sup>花<sup>ニ</sup> 碧<sup>シ</sup>

荆父

卵もろろ や 不<sup>レ</sup>く 水<sup>ノ</sup>管

箕冬

編みてのち終ひのちをふ載さ

中加

月く日よ報くもれたやみく終

久松

走きぬねむらや冬梅

下巻下田

利柳

さくちる末程のさき冬梅

柳水

宿のやねあまの宿みく

素連

ゆらがる雪のすくや冬梅

和孝

糸積く人の心あまの宿

梅子

土手山ふすの宿く大言所子太の湯かき  
うら奉るも色中ふて春かける子  
事寸と大言つすの君神酒の飯子ばと  
同交たやうそむら人の申をたれ、祖父乃  
年八十を越ておすくはかむさをたか  
まなる年のむかたかーをたて名手





さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ  
さあさあさあさあさあさあさあさあさあさあ

晴々齋亭礼讃

